

1940年代『毎日新報』連載の「国語」学習教材 —「日常会話」について（1942年1月22日から 同年6月30日 全126回）—

上 田 崇 仁

0. はじめに

植民地朝鮮における「国語」（日本語）教育は、多様なチャンネルを通じて実施されていたと言えよう。普通学校をはじめとする学校教育はもとより、社会教育として実施された「国語」教育やラジオ講座、新聞連載、直接の「国語」教育教材としては未発見だが「国語」学習啓発教材としての紙芝居²などが挙げられる。

このうち、1940年代は、徴兵制施行に向けての「国語常用」「国語全解」運動の反映から、新聞連載の「国語」学習用教材が数多く見られることを上田（2023）において指摘した。

本稿では、1940年代の「毎日新報」に連載された「国語」学習教材の中から1942年1月から6月に連載された「日常会話」という教材を取り上げ、その特徴を記述することにより、この教材においてどのような日本語教育が行われていたのかを明らかにしていきたい。図1は実際の紙面に掲載された講座である。

表1は、上田（2023）で示した『毎日新報¹』の1940年1月1日から1945年8月15日までの紙面から、「国語」学習用の連載の講座名と連載期間を一覧にしたものである。表中の数値は、確認できた連載数である。

¹ 景印文化社による影印版を底本とした。

² 日本教育紙芝居協会作品「かはい、孫娘」（1942）

表 1. 『毎日新報』連載講座の一覧

	今日の放 送回話	国語欄	国語講座	国語教室	日常会話	カタカナ 教室	キコーノ レン シュー	キコーノ ベン キョー	けふのべ んきょう	国語の子 かみち	クフノネ クイコ	一日一語	マテガヘ キスイコ クゴ	墨田川村 泉碧	余閑いろ はカルタ	手紙の書 き方	増さんの 作文	満洲開拓 地学堂の 読み方	国語毎新 面	国語記事 面
1940	1																			
	2																			
	3																			
	4		92																	
	5																			
	6																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	12			102																
1941	1																			
	2																			
	3																			
	4		109																	
	5																			
	6																			
	7																			
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
1942	1			271	126															
	2																			
	3																			
	4													125						
	5																			
	6																			
	7						74										6			
	8																			
	9							105												
	10																			
	11																			
	12																			
1943	1																			
	2																			
	3									76										
	4																65			
	5																			
	6	93																		
	7							44												
	8																			
	9																			
	10																			
	11									83		56								
	12																		7	
1944	1																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6										168									
	7																			
	8																			
	9																			
	10												8							
	11																			
	12																			
1945	1																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	6																			
	7																			
	8																			

2. 具体的な内容

以下、全三期の内容を示す。「内容」は掲載の本文である。本文は、図1に示したように歴史的仮名遣いによるカタカナ表記であり、日朝両言語で書かれているが、ここでは現代仮名遣いの漢字かな交じり表記とし、日本語のみを示すこととした。本稿の目的は、どのような内容の日本語を教育しようとしていたのか、を示したうえで検討することなので、原文をそのまま掲載する必要性は低いと判

断したためである。

2.1. 第一期

第一期のプログラムの掲載日と内容は表2のとおりである。例文中の「？」は印刷状況が悪く判読できなかった箇所である。

表2. 「日常会話」第一期の内容一覧

月 日	内容
1月22日	一、挨拶（一） おはようございます。おはよう。こんにちは。こんばんは。おやすみなさい。おやすみ。
1月23日	一、挨拶（二） お宅はお変わりございませんか。 長らくご無沙汰いたしました。 お久しぶりです。 そのうちにまたお目にかかります。 さようなら。 お父さんによろしく申し上げてください。
1月24日	二、天気（一） 天気はいかがですか。 良いお天気でございます。 空が晴れました。 南風が吹きます。 天気が曇ります。 日が昇りました。 月が出ました。 日が暮れば、月がのぼります。
1月26日	二、天気（二） 雨がやみました。 雨が降って地面がジメジメします。 露があります。 霜が降りました。 雪が積もりました。 大変な風でございます。 ゴミが立ちます。 風です。
1月27日	二、天気（三） 東南の風が吹いて、雨が降り注ぎます。 西風が吹くから雨がやみそうです。 日が出たので爽快です。 虹が現れました。 雷をお聞きなさいましたか。 びっしょり濡れました。

1月28日	<p>三、時間（一）</p> <p>あなた時計をお持ちですか。</p> <p>はい、持っております。</p> <p>ただいま何時ごろになっておりますか。</p> <p>六時半です。</p> <p>はやそんなになりましたね。</p> <p>この時計は少し遅れますから、ただいま四十分ごろでしょう。</p>
1月29日	<p>三、時間（二）</p> <p>その時計をいつ合わせましたか。</p> <p>今日のサイレンに合わせました。</p> <p>それではもう一時間ぐらいたつから日が暮れましようね。</p> <p>まもなく暮れましよう。</p> <p>もっと遅れないうちに帰りましよう。</p> <p>はいそうしましよう。</p>
1月30日	<p>四、起居（一）</p> <p>あなたは何時に起きられますか。</p> <p>遅くても五時には起きます。</p> <p>起きられては、何をなさいますか。</p> <p>すぐ顔を洗って、運動に出かけます。</p> <p>朝飯は、何時におあがりなさいますか。</p>
1月31日	<p>四、起居（二）</p> <p>朝飯は七時ごろ食べます。</p> <p>そののちは何をなさいますか。</p> <p>約三十分休んでから出勤します。</p> <p>何時ごろお引けになりますか。</p> <p>午後五時ごろ引けます。</p>
2月2日	<p>四、起居（三）</p> <p>お引けになってからは何をなさいますか。</p> <p>夕飯を食べてからしばらく休みます。</p> <p>そののちは何もなさいませんか。</p> <p>すぐ散歩に出かけます。</p> <p>何時ごろお帰りになりますか。</p>
2月3日	<p>四、起居（四）</p> <p>八時頃帰ります。</p> <p>すぐお休みになりますか。</p> <p>一二時間ぐらい本を読んで十時ごろに寝ます。</p> <p>それでは友人をご訪問なさるお暇もないでしょうね。</p> <p>それで友人の訪問は日曜日などにします。</p>
2月4日	<p>五、食事（一）</p> <p>御飯ができております。</p> <p>お膳を持っておいで。</p> <p>今日のおかずは良いですね。</p> <p>いつも同じです。</p> <p>めしもよく炊きましたね。</p> <p>少し硬くありませんか。</p>

2月5日	五、食事（二） 朝飯は柔らかであったが今は良いです。 お湯を持っておいで。 お汁が少し塩辛いです。 めしに小豆でも混ぜなさいな。 もうおやめですか。 おいお膳を片付けよ。
2月6日	六、初対面（一） お二人方にご紹介します。 おはじめてお目にかかります。私はヨシモトシゲヲ ³ でございます。 お名前はかねて承っております。私はキンイチゼンでございます。
2月7日 ⁴	六、初対面（二） ご機嫌よろしうございますか。 ご無事でございますか お宅はどちらでございますか。 わたくしのうちは田舎でございます。 どこの旅館にお泊りになっておられますか。 親戚のうちに泊っております。
2月9日	さぞお困りでしょう。 親戚のうちでございますから、あまり不便なことはありません。 まだ当分おられますか。 今月の末まではおるつもりです。 それではたびたびお目にかかりましょう。 近いうちにまたお目にかかりましょう。
2月10日	七、方位（一） 日は東から昇ります。 月は西に入ります。 東に向かって立てば右は南で左は北です。 東西南北を四方といいます。 南向きの家は日当たりが良いです。 東南の風が吹きます。
2月11日	七、方位（二） わたくしの前には机があります。 後ろには本棚があります。 机の上には灰皿が置いてあります。 その下には何もありません。 外に立たないで部屋の中におはいりなさい。

³「ヨシモトシゲヲ」は朝鮮語訳では「ヨシモトシゲヲ」と書かれており掲載されていない漢字名を朝鮮語で読むスタイルになっており、カタカナのハングル表記ではない。

⁴この日の連載では「틀리기 쉬운 말」と「日常会話」のタイトルが入れ替わっている。

2月13日	<p>八、道を尋ねる（一） もしもし、ちょっとお尋ねします。 はい、何ですか。 ショウロはどちらからまいりますでしょうか。 こちらをしばらく行かれて右に曲がっておいでなさいませ。 こちらからは行かれませんかでしょうか。</p>
2月14日	<p>八、道を尋ねる（二） そちらから行かれますとお回りになりますが。 あの横丁は抜けられますでしょうか。 そこは突き当たっております。 ここからショウロまで何分ほどかかるでしょうか。 早足で十五分はかかるでしょうね。 どうもありがとうございました。 いいえ、どういたしまして。</p>
2月23日	<p>八、道を尋ねる（三） ちょっとお伺いしますが、南商会はどのへんでしょうか。 その店はひと月ほど前に引っ越しましたけれど。 どちらに移ったでしょうか。 わたくしもはっきり存じません。あすこの交番にいらしてお聞きになればお分かりになるだろうと思います。</p>
2月24日	<p>九、訪問（一） ごめんください。 ヒラヌマさん、お宅にいらっしゃるでしょうか。 はい、いらっしゃいます。どちらさんでいらっしゃいますか。 キンエイフクと申します。 少々お待ちくださいませ。</p>
2月25日	<p>九、訪問（二） よくいらっしゃいました。まったくお久しぶりですね。 お宅はお変わりございませんか。 おかげさまで皆元気です。 昨日もちょっとお宅へ上がりましたけれどもお留守なんで。 それはどうもお気の毒でした。</p>
2月26日	<p>九、訪問（三） 昼食を一緒に召し上がりませんか。 ありがとうございます。ちょっとほかに寄り道をせねばならんところがありますので今日はこれでおいとまさせていただきます。 そうですか。ではそのうちにまたお目にかかりましょう。どうか皆さんにもよろしく申し上げます。 かしこまりました。さようなら。 さようなら。</p>

2.2. 第二期

第二期の内容は表3のとおりである。

表3. 「日常会話」第二期の内容一覧

月 日	内容
2月27日	基本会話 (1) 現在・過去・未来 (一) (1) 本を読みます。本を読みました。 (2) 道を歩きます。道を歩きました。 (3) 字を書きます。字を書きました。 (4) 子供が笑います。子供が笑いました。 (5) 早く起きます。早く起きました。
2月28日	基本会話 (1) 現在・過去・未来 (二) (6) 絵を見ます。絵を見ました。 (7) 人がいます。人がいました。 (8) 本を教えます。本を教えました。 (9) 料理を食べます。料理を食べました。 (10) 洋服を着ます。洋服を着ました。
3月2日	基本会話 (1) 現在・過去・未来 (11) 金を換えます。金を換えました。 (12) 紙を数えます。紙を数えました。 (13) 話をやめます。話をやめました。 (14) 早く寝ます。早く寝ました。 (15) 車を降ります。車を降りました。
3月3日	基本会話 (1) 現在・過去・未来 (四) (16) 花が咲きました。花が咲くでしょう。 (17) 良い天気でした。良い天気でしょう。 (18) 雨が降りました。雨が降りましょう。 (19) 風が吹きます。風が吹きました。風が吹くでしょう。 (20) 家へ帰りました ⁵ 。家へ帰りました。家へ帰りましょう。
3月4日	基本会話 (2) 疑問・肯定・否定 (一) (1) これは何ですか。これは本です。これは本ではありません。 (2) これは本ですか。これは本です。これは本ではありません。 (3) これは本ではありませんか。これは本です。これは本ではありません。 (4) あれは何ですか。あれは机です。あれは机ではありません。
3月5日	基本会話 (3) 疑問・肯定・否定 (一) (3) ⁶ あれは机ですか。はい、あれは机です。いいえ、あれは机ではありません。 (6) あれは、机ではありませんか。はい、あれは机ではありません。いいえ、あれは机です。 (7) それは、花ですか。それは、花です。それは花ではありません。

⁵ 「家へ帰ります」の誤植と思われる。

⁶ (5) の誤植と思われる。

3月6日	<p>基本会話 (2) 疑問・肯定・否定 (三)</p> <p>(8) それは、花ではありませんか。はい、それは花ではありません。いいえ、それは花です。</p> <p>(9) あの人は学生ですか。あの人は学生です。あの人は学生ではありませんか。</p> <p>(10) あの人は商人ですか。はいあの人は商人です。いいえあの人は商人ではありません。</p>
3月7日	<p>基本会話 (2) 疑問・肯定・否定 (四)</p> <p>(11) あれは、本ですか。いいえ、あれは本ではありません。新聞です。</p> <p>(12) あの人は学生ですか。いいえ、あの人は、学生ではありません、商人です。</p> <p>(13) あなたはどなたですか。私は田中です。</p> <p>(14) あの方は木村さんですか。いいえ、田中さんです。</p> <p>(15) あなたのお名前は、何とおっしゃいますか。林と申します。</p>
3月9日	<p>基本会話 (2) 疑問・肯定・否定 (五)</p> <p>(16) あなたが林さんですか。はい、さようです。</p> <p>(17) 林さんは、どちらですか。林は私です。</p> <p>(18) あなたはあの人を知っていますか。はい、私はあの人を知っています。</p> <p>(19) あなたはあの人と行きますか。はい、私はあの人と行きます。</p>
3月10日	<p>基本会話 (3) 数詞用語 (一)</p> <p>(1) そこに紙が二枚ありますか。そこに二枚の紙があります。</p> <p>(2) そこに何がありますか。そこに一本の鉛筆と、五本の筆があります。</p> <p>(3) それは、何ですか。これは一冊の本です。</p> <p>(4) あそこに、犬は何匹いますか。白犬が一匹に、黒犬が五匹います。</p>
3月11日	<p>基本会話 (3) 数詞用語 (二)</p> <p>(5) あそこにいるのは、何ですか。一頭の牛と三頭の馬です。</p> <p>(6) 人力車を呼んでください。何台呼びますか。六台呼んでください。</p> <p>(7) お茶を一杯ください。お茶はありませんから、サイダー一瓶あげましょう。</p>
3月12日	<p>基本会話 (3) 数詞用語 (三)</p> <p>(8) 今日はどこからですか。今日、十頁からです。</p> <p>(9) そこに、何足の靴がありますか。そこに、三足の白靴と二足の黒靴があります。</p> <p>(10) あなたは洋服を何組持っていますか。私は洋服を三組持っています。</p>
3月13日	<p>基本会話 (3) 数詞用語 (四)</p> <p>(11) あちらにたくさんの鶏がいます。数えてごらん下さい。一羽、二羽、三羽、四羽、五羽、六羽います。</p> <p>(12) あそこに何がありますか。あそこに一軒の肉屋があります。</p> <p>(13) 白砂糖は、一斤いくらですか。一斤二十五銭です。</p>

3月14日	<p>基本会話 (4) 時間用語 (一)</p> <p>(1) 今、何時ですか。今は午前九時十五分です。</p> <p>(2) 今は、何時ですか。今は、午後四時六分過ぎです。</p> <p>(3) 今は、八時十分ですか。いいえ、八時四分前です。</p> <p>(4) あなたは、毎朝何時に起きますか。私は、毎朝五時半ごろ起きます。</p>
3月16日	<p>基本会話 (4) 時間用語 (二)</p> <p>(5) 何時に寝ますか。晩は、大概十一時ごろ寝ます。</p> <p>(6) 昼飯は何時に摂りますか。昼飯は正午に摂ります。</p> <p>(7) あなたの時計は何時ですか。おや、五時で止まったきりです。</p> <p>(8) あなたの時計は正確ですか。いいえ、私の時計は、毎日五分宛進みます。</p>
3月17日	<p>基本会話 (4) 時間用語 (三)</p> <p>(9) あなたの時計は何時ですか。私のは、只今五時半ですが、二三分、遅れてます。</p> <p>(10) 彼は何時に、出発しましたか。三時間ばかり前に出発しました。</p> <p>(11) 学校は何時から始まりますか。朝八時から始まります。</p> <p>(12) 何時に学校が終わりますか。午後四時に終わります。</p>
3月18日	<p>基本会話 (4) 時間用語 (四)</p> <p>(13) 今も正午に、午砲が鳴りますか。いいえ、今は、サイレンが鳴ります。</p> <p>(14) あなたは、何時間ぐらい勉強しますか。毎日五時間ぐらい勉強します。</p> <p>(15) あなたは何時間ぐらい寝ますか。毎日八時間ぐらい、睡眠をとります。</p>
3月19日	<p>基本会話 (4) 時間用語 (五)</p> <p>(17) あなたは、毎朝散歩しますか。毎朝食前に一時間ぐらい散歩します。</p> <p>(18) ??まで何日かかりますか。三日かかります。</p> <p>(19) この仕事はすぐできますか。いいえ、半日はかかります。</p> <p>(20) 孫基禎のマラソン世界記録は何時間何分何秒ですか。二時間二十九分十九秒二です。</p>
3月20日	<p>基本会話 (5) 年月日用語 (一)</p> <p>(1) 今年は建国紀元何年ですか。今年は、建国紀元二千六百二年です。</p> <p>(2) 今年は、昭和何年ですか。今年は昭和十七年です。</p> <p>(3) 一年は、何か月ありますか。一年は十二か月あります。</p> <p>(4) 一か月は、何日ありますか。大の月は三十一日、小の月は三十日あります。</p>
3月21日	<p>基本会話 (5) 年月日用語 (二)</p> <p>(5) 二月は何日ありますか。平年は二十八日、閏年は二十九日あります。</p> <p>(6) 閏年は、何年ごとにありますか。閏年は、四年に一度あります。</p> <p>(7) 紀元節は、二月の何日ですか。紀元節は二月十一日です。</p>

3月23日	基本会合 ⁷ (5) 年月日用語 (三) (8) お別れしてから、何年になるでしょう。お別れしてから二年と三月になります。 (9) 洋服の仕上がりはどうしても一週間はかかります。 (10) 一週は何日ありますか。一週は、七日あります。 (11) 今日は何曜日ですか。今日は月曜日です。
3月24日	基本会話 (5) 年月日用語 (五) (12) 今日出発しますか。いいえ、明日出発します。 (13) あなたはいつ来ましたか。私は、先月参りました。 (14) あなたは、今年卒業ですか。いいえ、来年です。 (15) いつごろまでにできますか。明日の昼頃までにできます。
3月25日	(6) 度量衡 (一) (1) これは、何匁ありますか。十匁あります。 (2) 一斤は、何匁ですか。百六十匁です。 (3) 一貫は、何匁ですか。千匁あります。 (4) あなたは、何貫ありますか。十四貫五百匁あります。 (5) あの石炭は、何トンあるでしょうか。凡そ、三トンあると思います。
3月26日	基本会話 (6) 度量衡 (二) (6) この汽船は何トンですか。五千トンあります。 (7) ここから京城まで、何里ありますか。凡そ、百五十里あります。 (8) この川の深さは、どのくらいありますか。深いところは二丈もあり、浅いところでも、四五尺はあります。
3月27日	基本会話 (6) 度量衡 (三) (9) あなたの胸幅は、何尺ありますか。二尺八寸五分あります。 (10) ここから学校まで、どのくらいありますか。約五町あります。 (11) あなたの帽子は何吋ですか。六吋七分の一です。 (12) この家の間口は何間ありますか。この家の間口は、二間ありまして、奥行きは、五間あります。
3月28日	基本会話 (6) 度量衡 (四) (13) 一里は何町ですか。三十六町です。 (14) 一間は、何尺ですか。六尺です。 (15) この家の建坪は、いくらありますか。五十坪あります。 (16) この敷地は、坪当たりいくらですか。坪当たり八十円です。
3月30日	基本会話 (6) 度量衡 (五) (17) この大豆は、どのくらいあるか計ってください。六石七斗四升七合あります。 (18) その半分では、いくらですか。三石一斗七升三合五匁です。 (19) その二倍ではいくらになりますか。十二石六斗九升四合です。

⁷ 「基本会話」の誤植と思われる。

3月31日	<p>基本会話 (6) 度量衡 (六)</p> <p>(20) この海の深さは、何メートルありますか。十メートル十センチあります。</p> <p>(21) あの？の高さは、何メートルありますか。約二百五十メートルありましょう。</p> <p>(22) 一メートルは何尺ですか。三尺三寸です。</p>
4月1日	<p>基本会話 (7) 通貨 (一)</p> <p>(1) これはいくらですか。一円八十銭です。</p> <p>(2) この帽子は、いくらですか。三円四十銭です。</p> <p>(3) 全部ではいくらになりますか。五円二十銭になります。</p> <p>(4) 十円札で、お釣りをください。お釣りは、四円八十銭です。</p>
4月2日	<p>基本会話 (7) 通貨 (二)</p> <p>(5) 十円札を両替してください。五円札一枚と、あとは五十銭札でよろしいです。</p> <p>(6) この札を、小さくしてください。五十銭札八枚に、あとは一銭銅貨でよろしいです。</p> <p>(7) この白銅貨を札に変えてください。十円札はありません。五円札ならあります。</p>
4月3日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (一)</p> <p>(1) 夜が明けました。太陽が東の空に昇りました。</p> <p>(2) 日が暮れました。太陽が西に、沈もうとしています。</p> <p>(3) この船はどの方向に走ってますか。北に向かって、走ってます。</p>
4月5日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (二)</p> <p>(4) あの鳥はどの方面から、来たのでしょうか。多分、南のほうの温かい国から来たのでしょうか。</p> <p>(5) 今夜は、月が大変真ん丸ですね。今夜は十五夜ですから、月が丸くて大きいのです。</p> <p>(6) 春になりました。東風が吹いてきて暖かいです。</p>
4月6日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (三)</p> <p>(7) 今日は立春ですか。そうです、これから日増しに暖かくなります。</p> <p>(8) だんだん、暖かくなりますね。</p> <p>(9) 暑くなりましたね。もうすっかり、夏になりました。</p>
4月7日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (四)</p> <p>(10) 今日は夏至です。道理で暑いと思いました。</p> <p>(11) 今日は、ひどい雨ふりですね。雷が鳴りだしました。</p> <p>(12) あまり暑くてたまりません。どこかへ涼みに行きませんか。漢江に船遊びに行きましょう。</p> <p>(13) 暑くて自然に汗が出ます。アイスクリームでも、取って飲みましょう。</p>

4月8日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (五)</p> <p>(14) 朝晩涼しくなりました。まったく涼しくなりましたね。</p> <p>(15) 今日は立秋です。??夜が長くなりますね。</p> <p>(16) この頃はお勉強ですか。夜が長くなりましたから、よく勉強ができます。</p> <p>(17) 今が一番いい気候ですね。暑くもなく寒くもなく、本当にしのぎよい時です。</p>
4月9日	<p>基本会話 (8) 天文と気候 (六)</p> <p>(18) 秋の郊外散歩をしませんか。お供しましょう。天高く馬肥ゆという時候ですね。</p> <p>(19) 今日はひどく寒いですね。今朝は屋根の上に、霜が真っ白でした。</p> <p>(20) 家の中でも、ずいぶん寒いですね。外は雪が降っていますよ。</p>
4月10日	<p>基本会話 (8) 天文と時候 (七)</p> <p>(21) 寒くて手足が凍えますよ。火にお当たりなさい。</p> <p>(22) 朝晩めっきり寒くなりました。そうです、今日は冬至です。</p> <p>(23) 寒くて外へ出られません。家で世間話でもしましょう。</p> <p>(24) 私は寒がり性で、火鉢に当たっておらんと、辛抱ができません。</p>
4月11日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (一)</p> <p>(1) 天気は晴れましたか。すっかり晴れました。</p> <p>(2) 明日は天気でしょうか。明日も天気でしょう。</p> <p>(3) めったにない天気ですね。まったく、今日は上天気です。</p> <p>(4) 当分天気が続きでしょうか。この分なら、当分天気続きでしょう。</p> <p>(5) 明日のお天気はいかがでしょうか。お天気はあまりよくないと思います。</p>
4月12日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (二)</p> <p>(6) 今日は良いお天気ですね。本当に、気が晴れ晴れします。</p> <p>(7) 鬱陶しく良く降る雨ですね。??ても、こう降り続いては、いやになりますね。</p> <p>(8) 桜は満開でしょうね。昨夜の嵐で、すっかり散ってしまいました。</p>
4月14日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (三)</p> <p>(9) 暑くなりましたね。本当に、今日は、蒸し暑くてたまりません。</p> <p>(10) 少しも雨が降りませんね。こう天気続きでは、早魃で農家は困るでしょう。</p> <p>(11) 空が曇ってきました。夕立が来るかもしれません。</p> <p>(12) 雨は降るのでしょうか。降るかもしれませんから雨傘を持っていらっしやい。</p>
4月15日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (四)</p> <p>(13) ひどい雨になりましたね。まったく土砂降りです。</p> <p>(14) 雨模様です。雨になるかもしれません。</p> <p>(15) 空模様が変わですね。雨が降ると弱りますから傘を貸してください。</p> <p>(16) 天気模様が怪しくなってきました。雨がポツリポツリ降ってきました。</p>

4月16日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (五)</p> <p>(17) 明日の天気模様はいかがですか。暴風雨襲来の通報が出てます。</p> <p>(18) 空が晴れてきました。太陽が、雲間から見えます。</p> <p>(19) 太陽が、カンカンと照ってます。今まで夕立があった様子も見えません。</p> <p>(20) 夕立がやんだら、一層暑くなりました。鬱陶しいお天気です。</p>
4月17日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (六)</p> <p>(21) 雨は、やみそうもありませんね。通り雨ですから、すぐやみましょう。</p> <p>(22) 雨がやみました。きれいな虹が出てきます。</p> <p>(23) ?はいかがですか。雨で大層?いです。</p> <p>(24) 空が澄みきってます。本当の秋晴れですね。</p>
4月18日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (七)</p> <p>(25) 今日は、十五夜ですか。いいえ、十三夜です。</p> <p>(26) 月が良く照ってます。空一面に無数の華です。</p> <p>(27) きれいな月ですね。今夜は十五夜ですから、月は大きくて丸いです。</p> <p>(28) 月が出てませんから、真っ暗です。足元に気を付けていきなさい。</p>
4月19日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (八)</p> <p>(29) 空が真っ暗です。月が雲に隠れました。</p> <p>(30) 近頃はすぐ空模様が変わりますね。夏の天気は、すぐ変わります。</p> <p>(31) 寒くなりましたね。めっきり寒くなりました。</p> <p>(32) 今朝はひどい霜でした。道理で、今日は寒いです。</p>
4月21日	<p>基本会話 (9) 天気用語 (九)</p> <p>(33) 雪解けで、道がひどいでしょう。ぬかるみがひどくて歩けません。</p> <p>(34) 昨夜は、蒸し暑くて寝られませんでした。早く秋になればいいのに。</p> <p>(35) 霧、霜、?、霰、?、?、?、?、露、氷などは、その名こそ違っているが、いずれも水の形の変えたものにすぎません。</p>
4月22日	<p>基本用語 (10) 教室用語 (一)</p> <p>「李さん」「はい」</p> <p>「張さん」「・・・・・・」「張さんはおりませんか」「欠席です」</p> <p>「今日はどこからですか」「二十八ページの二行目からです」</p> <p>「林さん、昨日のところをお読みなさい」「はい」</p>
4月23日	<p>基本会話 (10) 教室用語 (二)</p> <p>「カ行の発音がまだはっきりしません。もう一度「カ行」の発音を言いなさい」「カキケコ」「よろしい」</p> <p>「皆さん、私について一度に読んでください」</p> <p>「今日は次に進みます。私と一緒に読みましょう」</p> <p>「南さんお読みなさい」「はい」</p>

4月24日	<p>基本会話 (10) 教室用語 (三)</p> <p>「それは読み方が違います。それは転呼音ですから、「かほ」ではありません、「かお」と読むのです。</p> <p>「はい、わかりました」「それでは、ここを説明します」</p> <p>「わかりました」「先生その字を漢字で書いてください」</p>
4月25日	<p>基本会話 (10) 教室用語 (四)</p> <p>「質問はありませんか」「先生、この字の意味を翻訳してください」</p> <p>「先生、まだわかりません。もう一度説明してください」「よろしい、これでわかりましたか」</p> <p>「では、この字は何と読みますか」「人々です」</p> <p>「よろしい、では今日はここまで。皆さん、毎日予習や復習をしなければいけません」</p>
4月26日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (一)</p> <p>(1) これは誰の帽子ですか。それは、私の帽子です。</p> <p>(2) 私の杖は、どこにありますか。あそこにあります。</p> <p>(3) 今日は学校がありますか。今日は学校はありません。</p> <p>(4) お金がありますか。お金はありません。</p> <p>(5) 人がいますか。人がいます。</p> <p>(6) 鳥がいますか。鳥はいます。</p>
4月28日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (二)</p> <p>(7) 人がいますか。大勢の人がいます。</p> <p>(8) 鳥がいますか。たくさんの鳥がいます。</p> <p>(9) 柱が何本あるか、数えてごらん下さい。たくさんの柱ですから数えきれません。</p> <p>(10) 学校はどこにありますか。西大門にあります。</p> <p>(11) 南山に行きませんか。一緒に参りましょう。</p>
4月29日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (三)</p> <p>(12) どこへ行きますか。停車場へ友人を見送りに行きます。</p> <p>(13) 学校から何時に帰りますか。四時に帰ります。</p> <p>(14) ここから京城まで何マイルありますか。三十マイルあります。</p> <p>(15) これは高いですね。それは品が良いですから値段が高いです。</p>
5月1日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (四)</p> <p>(16) 道はいかがですか。雨が降りましたから、道がひどくなりました。</p> <p>(17) これは丈夫ですか。あれから比べますと、この方が丈夫です。</p> <p>(18) 何をしていますか。本を読んでいます。</p> <p>(19) 何をしましたか。仕事をしてました。</p> <p>(20) 何を持っていますか。金を持っています。</p>
5月2日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (五)</p> <p>(21) どこに何があるかわかりますか。遠くて??があるかわかりません。</p> <p>(22) あの音が聞こえますか。耳を澄ますと微かに聞こえます。</p> <p>(23) 彼に会いましたか。不在で会えませんでした。</p> <p>(24) 両親はみんなお元気ですか。母は元気ですけれども、父は亡くなりました。</p>

5月3日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (六)</p> <p>(25) 春になりましたけれど、未だ寒いですね。そうです。うっかり薄着はできません。</p> <p>(26) 明日花見に行きませんか？天気ならば参りましょう。</p> <p>(27) 大変ご勉強ですね。怠けますと試験に及第はできませんから勉強します。</p>
5月5日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (七)</p> <p>(28) どこかお悪いのですか。お顔の色が悪いですよ。どこも悪くはないのですが。春になるといつもそうです。</p> <p>(29) あなたは？？する？？りです。私は？？く体を静養するつもりです。</p> <p>(30) お天気はいかがでしょう。多分降ると思います。</p> <p>(31) 動物園に行きたいのですが、ご案内いただけませんか。よろしゅうございます。いつでもご案内いたしましょう。</p>
5月6日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (八)</p> <p>(32) 映画見に行きませんか。私も見たいと思っていたところです。一緒に参りましょう。</p> <p>(33) 何か面白い記事が載ってますか。わが飛行機が体当たりをしたということです。</p> <p>(34) 何かあったのですか。失火があったということです。</p> <p>(35) 中村さんは、何日に出発しますか。ご存じですか。来週の火曜日に出発するそうです。</p>
5月7日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (九)</p> <p>(36) 中村さんは、どこへ行きましたか。二三日前に、旅行にかけました。一人で出かけたのですか。いいえ、友人二三人と一緒に出掛けました。</p> <p>(37) 修繕してもらった時計がまた動きません。そんなことはないはずですが、拝見しましょう。せっかく修繕しても、これでは困ります。申し訳ありません、さっそくやり直します。</p>
5月8日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (十)</p> <p>(38) 一泊いくらですか。三円です。朝食はいりません。では半泊まりですから二円五十銭いただきます。</p> <p>(39) 野菜やさん、この大根はいくらですか。一本十線です。このスイカはいくらですか。それは走りですから、少々お高うございます。</p>
5月10日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (十一)</p> <p>(41)⁸ 試験は終わりましたか。昨日終わったばかりです。どうでした成績は。國語はうまくいったと思いますが、数学は失敗しました。</p> <p>(42) あなたは梧村先生をご存じですか。お名前はかねてより存じてますが、お目にかかったことはありません。一度折があったら、お会いになったほうがよろしいでしょう。ご紹介願います。</p>

⁸ 「40」が飛ばされている。

5月12日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (十二)</p> <p>(43) 張さん、あなたは夕飯を食べましたか。いや、まだです。それでは、どこかで、夕食を食べましょう。そうですね、あそこの食堂は安くてうまいという評判です。</p> <p>(44) お嬢さんをご出産だそうです、おめでとうございます。おかげさまで、安心いたしました。お二人にお変わりはございませんか。幸いに二人とも、丈夫でございます。</p>
5月13日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (十三)</p> <p>(45) あなたは近頃顔色もよく元気になりましたね。おかげさまで、この頃は病気にかかったことはありません。何か良い健康法があるのですか。ただ私は、朝早く起きて、ラジオ体操をやるだけです。</p>
5月14日	<p>基本会話 (11) 数語問答 (十四)</p> <p>(46) 池田さんお宅ですか。どなたですか、どうぞお入りください。お、あなたですか、私はまた李さんかと思いました。どうしてですか。声がよく似てましたからね。</p> <p>(47) このバナナは、百目いくらですか。百目十二銭です。これは、どこのリングですか。黄州リングですから、大変うまいです。</p>
5月15日	<p>基本会話 (11) 数語会話 (十五)</p> <p>(48) 六時になりましたが、李さんはまだ来ませんね。どうしたのでしょうか。あそこに公衆電話があります、かけてみましょう。</p> <p>(49) もしもし、光化門の百十七番を願います。光化門の百十七番でございますか。そうです。お待ちください。光化門の百十七番、出ました。五銭お入れください。入れました。お話しください。</p>
5月16日	<p>基本会話 (11) 数語会話 (十六)</p> <p>(50) 先日注文した洋服は、出来ましたか。申し訳ございません、職人が病気で休んだものですから、遅れました。そんな無責任では困ります。私も急ぐのですから決めた日に作ってくれなくては困ります。何とも申し訳ありません。もう二三日お待ちになってくださいませんか。</p>
5月17日	<p>基本会話 (11) 数語会話 (十七)</p> <p>(51) この列車は、水原に止まりますか。止まります。何分止まりますか。三分間止まります。</p> <p>(52) この電報を、願います。この列車はこの次鐵原に停車しますから、鐵原から打てます。いくらですか。五十二銭です。細かいお金で願います。</p>
5月19日	<p>基本会話 (11) 数語会話 (十八)</p> <p>(53) ご家族は何人様ですか。四人でございます。ご両親はお達者ですか。ありがとうございます、みな達者です。</p> <p>(54) 新井先生はお宅ですか。ただ今留守でございますが、どなた様ですか。そうですか、では、お帰りになりましたら、この名刺を差し上げてください。では、いずれ明晩六時に、お伺いいたします。さようでございますか、せっかくおいでくださいませまして失礼いたしました。</p>

5月20日	基本会話 (11) 数語会話 (十九) (54) 誠に申しかねますが、金五十円くらいちょっと拝借を願います。そうですか、私の手元にあるものは、たった二十円しかありませんが、それだけでは入用にならないでしょう。
5月21日	基本会話 (11) 数語会話 (二十) (55) どこかへご旅行されると聞きましたがいつご出発ですか。明日から南鮮地方に出張することになりました。 (56) 何時にお立ちになりますか。朝十時の汽車で行きます。今度の旅行は、汽車、汽船、自動車などあらゆるものに乗るようになります。

2.3. 第三期

第三期の内容は表4のとおりである。

表4 「日常会話」第三期の内容一覧

月日	内容
5月22日	一、挨拶 (一) (1) 朝の挨拶 (1) おはようございます。おはようございます。良いお天気ですね。本当に良いお天気で結構です。今朝は大分ゆっくりでしたね。昨夜少し調べ物があって、夜更かしをしましたから、朝寝をしてみました。
5月23日	一、挨拶 (一) (1) 朝の挨拶 (2) 私も今朝は朝寝のほうです。あなたは毎晩何時ごろお休みですか。朝が早いものですから夜分は九時ごろ床に入りますが布団の中で雑誌を読む悪い癖で、どうしても眠るのは十時過ぎになります。
5月24日	一、挨拶 (一) (1) 朝の挨拶 (3) 私も依然とこの中で新聞や雑誌を読んで、目を痛めたことがあります。そうですか。もう御出かけますか。???ます。 補充会話 今お起きになったのですか。いいえ、三十分ほど前に起きて朝食が済んだばかりです。
5月26日	一、挨拶 (一) (1) 朝の挨拶 (4) 昨夜はよく眠れましたか。明け方から目が覚めて、眠れま?? 朝ラジオ体操をおやりですか。 私は毎朝例水浴をやります。 朝食前三十分ほど近くを散歩します。

5月27日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(1) 朝の挨拶（5）</p> <p>朝の空気を吸うと、気持ちさがさわやかになりますね。</p> <p>朝早く起きると、一日中気持ちがいいです。</p> <p>今日の天気をご覧になりましたか。</p> <p>今日は怪しげな空模様ですね。</p> <p>そうですね。この天気では、昼頃までに降り出しますよ。</p>
5月28日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(2) 夜の挨拶（1）</p> <p>【路上編】</p> <p>こんばんは。こんばんは。どちらへ。ちょっと近所まで用事に参ります。別に用事ありませんがあまり月がよいので、ぶらぶら散歩に出ました。そうですね。その辺まで一緒に参りましょう</p>
5月29日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(2) 夜の挨拶（2）</p> <p>今日は良いお天気でしたね。良い天気でした。星がたくさん出ますから、明日も天気でしょう。そうですね。ではこの辺で失礼いたします。失礼いたします。</p>
5月30日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(2) 夜の挨拶（3）</p> <p>【訪友編】</p> <p>こんばんは。こんばんは、よくいらっしゃいました。どうぞおあがりください。お勉強ですか。お邪魔でしたね。いいえ、かまいませんよ。つまらない小説を読んでいたのです。</p>
5月31日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(2) 夜の挨拶（4）</p> <p>どうぞ、お茶をおあがりください。ありがとうございます。近頃は毎日朝がお早いようですね。そうです。一週間前から学校が早くなりましたので閉口です。</p>
6月2日	<p>一、挨拶（一）</p> <p>(2) 夜の挨拶（5）</p> <p>夜分は何時ごろお休みですか。決まってません。割合に宵っ張りです。いつも十一時ごろになります。もう何時ごろでしょう。いやにひっそりしましたね。十時回ったばかりでしょう。この辺は九時過ぎになると、静かになります。</p>
6月5日	<p>一、挨拶</p> <p>(2) 夜の挨拶（6）</p> <p>大変遅くまでお邪魔しました。まだよろしいではありませんか。ありがとうございます。遅いですから、失礼します。おやすみなさい。</p> <p>そうですね。何のお構いもなく、失礼しました。おやすみなさい。</p>

6月6日	<p>一、挨拶（一） (2) 夜の挨拶（7） 補充会話（1） ただいまお帰りですか。ちょっとよそへ行ったものですから帰りが遅くなりました。夜分伺って失礼いたしました。つい話に熱が入っておそくまで失礼いたしました。いいえ、かまいません、私はいつも帰るのは遅いのですから。</p>
6月7日	<p>一、挨拶（一） (2) 夜の挨拶（8） 補充会話（2） では、そろそろ休みましょう。もうお休みですか。明朝6時に起こしてください。不眠症で困ります。今朝ほどは失礼いたしました。今朝ほどはありがとうございました。</p>
6月9日	<p>一、挨拶（一） (3) 春の挨拶（1） この頃は暖かくて結構です。そうですね、すっかり春になりました。もう梅も散ったでしょう。そろそろ桜が咲きだしますね。今日のような天気十日も続くと、桜も咲きそろうでしょう。そうです、これで、人雨降ると、めっきり暖かくなりますよ。</p>
6月10日	<p>一、挨拶（二） (3) 春の挨拶（2） あなたは昌慶苑の夜桜をご覧になったことがありますか。まだ見たことはありませんが、大変見事だそうですね。実際満開の桜花はきれいですよ。?になりましたら、花見にお供させていただきます。いいですとも、ぜひご案内しましょう。</p>
6月11日	<p>一、挨拶（一） (3) 春の挨拶（3） 補充会話（1） 近頃は春めいてきましたね。だいぶ日が長くなりました。今日はよい小春日和ですね。梅の花が満開です。?の木々が一日一日と青い葉を見せます。春霞もたなびいています。</p>
6月12日	<p>一、挨拶（一） (3) 春の挨拶（4） 補充会話（2） 御覧なさい、堇やタンポポがきれいに咲きました。春雨の音を聞いているとなんだか物寂しくなりますね。今日はあまり照りませんし、花見にはおあつらえの天気です。今日はいくらか曇り日ですね。花曇りですよ。</p>
6月13日	<p>一、挨拶（一） (4) 夏の挨拶（1） 今日は暑ございます。本当に蒸し暑いですね。今年は例年のない暑さです。ちっとも風がありませんね。雨が降るといくらか涼しくなるのですがね。そうですよ、だいぶ。雲が出ますから、夕だちが降るかもしれませんよ。</p>

6月14日	<p>一、挨拶（一） (4) 夏の挨拶（2） 降るとよいのですが。夜分よく眠れますか。とても暑くて眠れませんので、窓という窓は全部開けて寝るのですが、寝苦しいです。そうでしょう。この四、五日は夜分でも寒暖計は八十度も上がりますからね。</p>
6月16日	<p>一、挨拶（一） (4) 夏の挨拶（3） 道理で寝苦しいです。じっとしていても汗が浮かんできます。あなたのように太った方は夏はお困りですね。特別苦しいですよ。あなたのように痩せた方が羨ましいです。いかがです。涼みがてらその辺を散歩しませんか？参りましょう。</p>
6月17日	<p>一、挨拶（一） (4) 夏の挨拶（4） 補充会話（1） 格別の暑さです。こう暑いと仕事も勉強も手につきません。食欲が出ません。夏痩せをします。夏痩せで一貫目近くも体重が減りました。</p>
6月18日	<p>一、挨拶（一） (4) 夏の挨拶（5） 補充会話（2） 昨夜買った豚肉が腐ったようで変な臭いがします。冷たいものを飲むと、かえて汗が出てたまりません。朝暑いので体の置き所がありません。夕方はいくらか涼しくなりましょう。朝顔がきれいに咲きました。</p>
6月19日	<p>一、挨拶（一） (5) 秋の挨拶（1） 近頃はだいぶん涼しくなりましたね。そうですね。もう秋です。???日が短くなりました。ちょっと外出すると一日何もできません。時期としては今が一番良い時です。</p>
6月20日	<p>一、挨拶（一） (5) 秋の挨拶（2） そうですね。涼しいので。勉強も仕事も充分できますが。???ますと、すぐ明かりが欲しくなります。私は近ごろ夜分に机に向かいますが。よく勉強ができます。</p>
6月21日	<p>一、挨拶（一） (5) 秋の挨拶（3） 補充会話 まだ日中は厳暑がかなりひどいです。秋はなんとなくもの寂しい気が致しますね。合わせでは寒い時があります。</p>
6月23日	<p>一、挨拶（一） (6) 冬の挨拶（1） ??? お寒うございます。ちょっと買い物に出ました。どうしました？近頃一向にお見えになりませんが。</p>

6月24日	一、挨拶（一） （6）冬の挨拶（2） 四五日風邪気味で寝込んでましたのでご無沙汰いたしました。そうでしたか？それはいけませんね。あまりお見えになりませんので、心配していました。
6月25日	一、挨拶（一） （6）冬の挨拶（3） もうよろしいのですか。だいぶ良くなりました。今年の寒さはまた格別に身に染みるようですから、お大事になさいます。ありがとうございます。
6月26日	一、挨拶（一） （6）冬の挨拶（4） ？内？話 お寒うございます。やあ、寒い所をよくおいででした。さあ、どうぞ。皆さん、お変わりありませんか。おかげでみな元気です。さあ、寒いのですか、慮なく火鉢のそばへお寄りください。
6月27日	一、挨拶（一） （6）冬の挨拶） ありがとうございます。実際、寒いですね。こっち。今年の寒さは50年代だそうですね。私は痩せているせいか寒さがことに身に染みるようです。
6月28日	一、挨拶（一） （6）冬の挨拶（6） 補充会話 ひどい吹雪ですね。これでは外へ一歩も出られません。寒い時は家の中で火鉢にかじりついていた方が良いです。雪解けて道が悪いですね。
6月30日	二、挨拶（二） （1）初対面の挨拶 初めてお目にかかります。私は木村と申します。私は青木と申します。お名前は伊藤君から伺って存じております。ではあなたは伊藤さんとお知り合いですか。そうです。私が今度京城へ参ったのも伊藤君のお世話です。

3. 内容の検討と分析

3.1. 第一期の連載について

第一期の連載は、「挨拶」「天気」「時間」「起居」「食事」「初対面」「方位」「道を尋ねる」「訪問」という9つのカテゴリーの例文が示されている。一つ一つが独立した文ではなく、会話が続くかと思えば、類似表現の独立した文が登場することもあり、掲載された例文のスタイルは非常に自由である。例えば、1月22日の「挨拶」の例文は、基本的に独立したものが列挙されているが、1月23日

の「挨拶」の例文は一連の会話になっている。また、1月26日の「天気」の例文では、冒頭の二つの文は会話として認められるとしても、続く例文は独立した例文となっている。

このような自由な形の掲載内容は、本稿では省略したが、一文一文に朝鮮語訳が付けられているということも支えになっているものと思われる。対訳から、ある程度の意味はくみ取れるわけで、会話になっていようがなくなってなかろうが、訳がある以上、理解に困難はなかったと考えられる。

また、1月28日からの「時計」の連載や、続く1月30日からの「起居」、2月4日から「食事」、2月6日からの「初対面」、2月13日からの「道を尋ねる」、2月24日からの「訪問」では、複数の連載が一連の会話を形作っていることがわかる。

ただ、この会話文が、暗記するに適切な例文であると考えるのは困難である。この時期の言語教育は、明治初期に導入された「範語法」からわけ「範文法」へ移っていく過程であり、北川（2006）は、朝鮮で使用された『国語読本』を取り上げ、内地の小学校との比較を通して、サクラ読本⁹に見られる50音図の重視、および範語法（word method）から範文法（sentence method）への移行がいち早くみえるという。本稿の扱う「日常会話」は1942年のものであり、すでに、初級の言語教育の流れは移り変わっており、本教材が文を基本に作られていること、場面に即した会話を提供していることには一定の評価を与えることができるだろう。しかし一方で、それを支える語彙や使用頻度がそれほど高いとは思えない会話例などが多くを占めており、例文や場面が十分に検討されたとはいえない。

3.2. 第二期の連載について

第二期は、第一期のような場面というカテゴリーではなく、「現在・過去・未来」や「疑問・肯定・否定」といった文法的なカテゴリーでスタートするが、途中から「数詞用語」「時間用語」「年月日用語」「度量衡」「通貨」「天気用語」「教室用

⁹ 1933年から使用された。

語」と、話題に即した会話例の提示を行うように変化している。さらに、「数語問答」というテーマを絞らず、かといって機能を絞ったと考えられない例文が続くようになる。この「数語問答」も実際の会話例を見ていくと、一連の会話になっているのではなく、例文番号の中で会話が成立しているだけで、その日の連載の中でまとまったストーリーが展開しているとはいえない。文法的に易から難へ配置されているという配置でもなく、教材の位置づけを解釈することが非常に困難である。5月17日、5月21日の教材は、例文番号をまたいで一連の会話となっている。

第一期の連載は「日常会話」を場面で切り取ろうとしたために、文法的なカテゴリーに広げられなかったという反省から、例文を並列的に示し、朝鮮語の翻訳と照らし合わせながら、文法的な知識を身に付けさせようと試みたものと考えられる。そこは一定の評価をしたいのだが、2月27日に取り上げられた動詞は5つ、そのうち、今でいうⅠグループの動詞が4つ、Ⅱグループの動詞が1つ、2月28日に取り上げられた動詞は5つ、ここはすべてⅡグループではあるが、Ⅰ段のものが3つ、Ⅱ段のものが2つとなっている。3月2日の動詞5つもすべてⅡグループの動詞である。3月3日は4つが動詞でⅠグループ、一つが名詞文となっており、形容詞文やⅢグループの動詞は一切採用されていない。学校文法で言うと、五段活用、上一段活用、下一段活用の動詞はあるが、か行変格活用、さ行変格活用の動詞は掲載されておらず、形容詞も形容動詞も掲載されていないということになる。つまり、文法的に整理しようとしたにもかかわらず、その視野はかなり偏った限定的なものといえ、日本語教育の専門家が関わっていた可能性、もっと広く言えば、言語教育の専門家が関わっていた可能性は極めて低いといえよう。数語問答も、様々なカテゴリーの話題、文型などが展開されていると見える一方で、系統だった講座にはなっていない。必要だと思われることが羅列してあるようにも見えるが、かといって、それが十分な「日常会話」であるとはいえない。

3.3. 第三期の連載について

では、第三期はどうだろうか。

第三期は、「挨拶」のカテゴリーに終始している。もう一つ下のレベルで見て

いくと、「朝の挨拶」「夜の挨拶」「春の挨拶」「夏の挨拶」「秋の挨拶」「冬の挨拶」「初対面の挨拶」となっており、連載時期が5月下旬から6月末までという時期を見ても、時期に合わせた連載とはとても思えない。また、毎回の会話は一日で完結しているわけでもなく、複数の回が一連の会話を構築していることもある。例えば、5月22日からの「朝の挨拶」では、5月24日までの3回の連載は一連の会話を形作っていると思われる。第三期の特徴は、「補充会話」というものが示されていることだが、何を補充するものなのか、どこにも説明もないため、その位置づけが不明である。複数の連載が一連の会話を形作っていることから、ある程度のまとまりのある話となっており、日本語による会話がどのように運ばれるかということを知るといことはできた可能性がある。ただし、連載が唐突に終わってしまっており、「カタカナ教室」の連載へと変わっていく。このような唐突さも、この講座が系統立ってあらかじめ何らかのシラバスに基づいて構成されていたものではないということが推察できる部分である。

4. 結論

1940年代には非常に多くの新聞連載講座が展開していくことは上田（2023）で指摘してきたが、一つ一つを詳細に見ていくと、その連載講座は、整えられたものではないことがうかがえる。本稿では、その中の一つ「日常会話」を取り上げ、連載された本文をすべて掲載し、その点を示してきた。

そもそも、新聞のような音声を伴わないメディアの場合、日本語の文に朝鮮語の対訳をどれだけ丁寧につけたとしても、ひらがなやカタカナ、漢字の読み方がわからない以上、「会話」につなげることは不可能である¹⁰。ひらがな、カタカナ、漢字の読み方がわかっている人が、対訳を見ながら日本語での言い方を学ぶ、というのは、かなり限定的な学習者の想定であるといえよう。文が読めるようになる、ということを目的としていない「会話」教材にしては、十分な手順を踏んでいないと指摘できるだろう。さらに、全部で126回程度の連載であっても、系統だってコースデザインを行うことができず、3つの期間に分け、しかも期間の長

¹⁰ 注3のように日本人名が朝鮮語の読みで記されていることからこのままでの使用は困難ではなかろうか。

さもまちまちであることなどから、かなり場当たりに教材を作成していた感が否めない。

「日常会話」というタイトルで連載されたこの講座からは、すべての時期で、「日常会話」をどうとらえているのか、どう切り取ろうとしているのか、ということの試行錯誤が見える。

参考文献

- 上田崇仁(2023)「マスメディアの中の日本語教育—ラジオ放送と新聞連載講座—」
『植民地朝鮮と京城放送局』
- 北川知子(2006)「国語教育と植民地：芦田恵之助と「朝鮮読本」」『植民地教育史
研究年報』8、日本植民地教育史研究会、pp.44-61